



誰もがハッピーに暮らせるように お菓子の寄贈を通じて笑顔を届ける

富山県
澤田グループ 株式会社ノースランド
「スマイルプレゼント」事業



株式会社ノースランド
代表取締役社長
澤田辰勇さん

「愛される人間・愛される企業」の 企業理念を社会貢献活動で実践

1975年に創業した株式会社「ノースランド」は富山県魚津市に本部を置き、多角的な事業を営む澤田グループの中核として、富山県内に14ホールを展開している。同社では「愛される人間・愛される企業」を企業理念に掲げ、自らが誇れる企業を目指して様々な取り組みを行っているが、その一環となっているのが、「スマイルプレゼント」という社会貢献活動である。

この活動は、富山県内の社会福祉協議会や社会福祉施設（児童・障がい者・高齢者など）などと連携して行われているもので、全14ホールに置かれたお菓子回収ボックスに遊技客から寄付していただいたお菓子を集荷・箱詰めして県内の施設に定期的に届けるだけでなく、従業員による紙芝居の読み聞かせ、ダンス、スポーツ、クリスマス会などを行い、子どもや高齢者と触れ合う時間をつくっている。また、ファン感謝デーの未受領賞品を含むお菓子や食材を「フードバンクとやま」を通じてひとり親支援団体へ寄贈している。こうした取り組みは2010年から継続されており、これまでにお菓子を寄贈した

施設・団体は延べ450施設以上（2022年は延べ96施設、うち新規35施設）、携わった従業員は延べ900名以上となっている。

このほかにも同社では社会貢献活動として、地域清掃、チャリティーボウリング大会（社員からの募金で保育園や施設に遊具などを寄贈）、プラタブ収集（車いすと交換し施設に寄贈）、エコキャップ収集（リサイクルによるCO₂削減、医療・生活支援など）などに取り組んでいるほか、災害被災地への義援金寄付なども行っている。直近では、2023年2月に発生したトルコ・シリア地震に対して、グループ54ヵ所（パチンコ店含む他事業所）で約2ヵ月間にわたって実施した募金に、従業員による募金を加えた28万円の義援金を日本赤十字富山県支部を通じて寄付した。その模様は地元テレビ局のニュースや地元紙の記事として取り上げられ、広く県民に伝えられた。現在は「ウクライナ人道危機救援金」「令和5年5月能登地方地震災害義援金」を募っている。※2023年5月25日現在



富山県内の社会福祉協議会や社会福祉施設に寄贈している「スマイルプレゼント」



手や足に障がいがある肢体不自由者の 日常生活動作を補助する介助犬

三重県
株式会社キング観光
「日本介助犬協会への支援継続」事業



株式会社キング観光
代表取締役社長
権田清さん

圧倒的に不足している介助犬の 育成を支援するために寄付を継続

1966年創立の株式会社「キング観光」は三重県桑名市に本社を置き、現在、三重県、名古屋地区、和歌山地区、滋賀地区に計24ホールを展開している。同社では社会貢献や地域貢献にも力を注いでいるが、その一つが介助犬の育成を支援する取り組みである。

介助犬とは、肢体不自由者の手足となり、日常生活における動作の補助をする犬のことで、主に落とした物を拾う、指示した物を持って来る、緊急連絡手段の確保、ドアの開閉、衣服の脱衣補助、車いすの牽引、起立・歩行介助、スイッチ操作などの動作で使用者をサポートしてくれる。さらに、介助犬と暮らすことによって、一人で外出することの不安が軽減されたり、家族が安心して外出できるようになったりするなどの二次的効果も期待できる。介助犬の同伴については、「身体障害者補助犬法」によって、公共施設、公共交通機関、商業施設、飲食店、病院、ホテルなどさまざまな場所で受け入れるよう義務づけられている。介助犬を

必要とする人は全国に約15,000人いるとされているが、介助犬の頭数は約60頭と圧倒的に不足している。さらに、介助犬の育成には、1頭につき約250万円の費用がかかるという。

キング観光ではこれまで、介助犬育成、訓練者養成、相談・情報提供、啓発・研究などを行う社会福祉法人「日本介助犬協会」（本部：神奈川県横浜市）の法人会員として、愛知県内のホールに募金箱を設置して介助犬の育成支援を呼びかけたり、同社ホームページに掲載して介助犬の認知度向上に努めたりするなどの支援を行ってきたが、権田清社長が愛知県長久手市にある同協会の「介助犬総合訓練センター～シンシアの丘～」を訪問した際に、センターのスタッフの真摯な取り組み姿勢や活動状況に感銘を受け、さらなる支援強化の必要性を感じたことから、2019年から毎年、同協会に対して300万円の支援金を寄贈し、2022年で累計1,200万円となっている。



毎年支援金を寄贈している介助犬総合訓練センターを訪問視察